

ふとまわりを見ると、山小屋でとまっていた人たちが集まってきて、じつとこのようすを見つめています。
そのあいだにも、空は、だんだんと明るくなり、今度はしゅ色に、そしてだいたい色にと変わっていきます。わたしは、その場にじつとくぎづけになってしまいました。

どれくらい時間がたったでしょうか。気がつくど、まわりはいつもの朝のけしきにもどっていました。

今のようすを、きれいな色とか、すごいけしきというように、ふだんよく使っている言葉で言ってしまうと、何かにすまないように思え、しばらくのあいだ、寒さもわすれ、だまってその場に立ちつくしていました。

「あや、十さいのたんじょう日おめでとう。」
父は、やさしくわたしの手をにぎりしめてくれました。

23 電話の向こうはどんな顔

ルルルルルルルルルル

電話のベルがなりました。陽一くんは、読みかけのまんがの本を持ったまま、受話きを取りました。

「はい、山田です。どなたですか。」

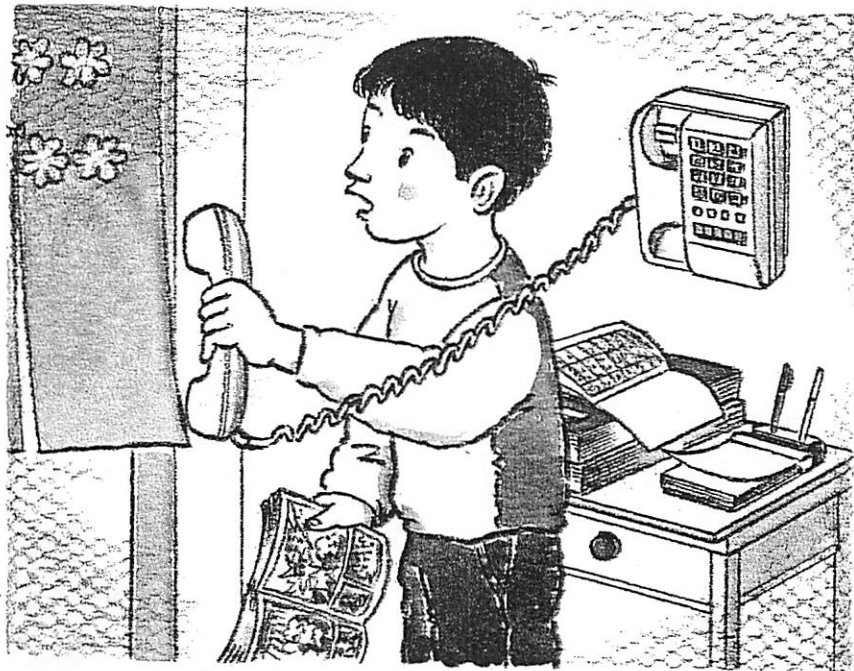
「あら、陽ちゃん。岩井です。お母さんいらっしゃる。」

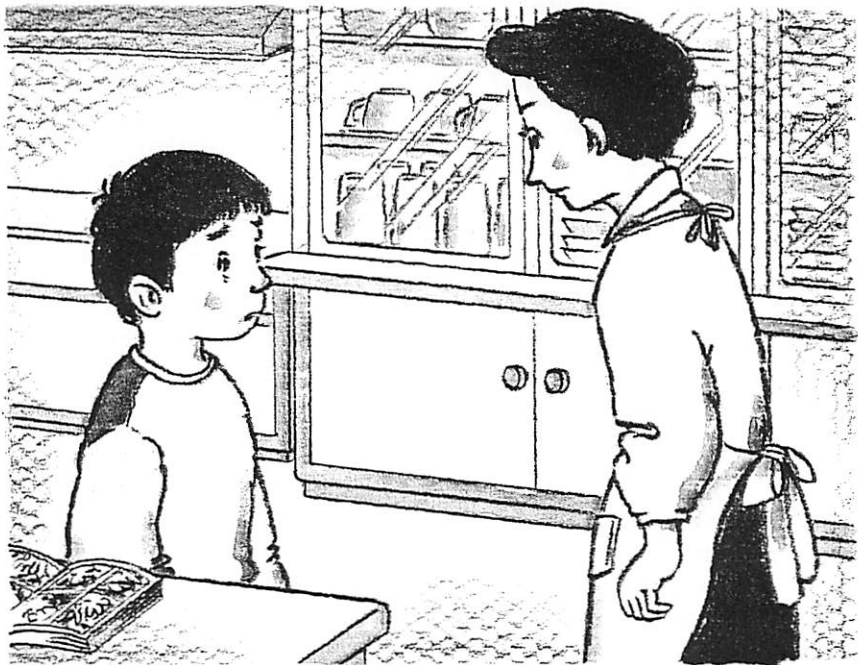
お母さんの友だちの岩井さんからの電話です。

「はい、少しお待ちください。」

陽一くんは、右手にまんがの本、左手に受話きを持ったまま、台所にいるはずのお母さんをよびました。

「お母さん、岩井さんから電話。」





そうやって、受話きをそばにある台の上におこうとしました。

でも、台の上は、電話帳だのメモ帳だのいっぱいです。しかたがないので、受話きをかたにかけ、まんがを読みながらお母さんを待つことにしました。なんととっても、今日買ったばかりの本です。陽一くんの中にはそれしかないのです。しばらくして、はっとしました。お母さんがまだ来ていないのです。陽一くんは、あわててもう一度、さつきよりずっと大きな声でよびました。

「お母さあん、でん・わ。」

「はい。」

今度は、すぐに返事がありました。

でも、なんだかずいぶん遠くの方から聞こえてくるようです。大じょうぶかなと思って、受話きをメモ帳の上におき、急いで台所へ行ってみると、

ベランダのドアが開いています。どうやら、お母さんは、ベランダで仕事をしていたようです。

「はいはい、ありがとうございます。」

「岩井さんからだよ。」

お母さんは、手をふきながらようやくベランダから出て来ました。さいしょにお母さんをよんだ声は聞こえなかつたようです。陽一くんは、ほっとしてまたまんがを読み始めました。

「あら、どうしたのかしら。こんなところに受話きが。」

電話のそばまできたお母さんは、びっくりしたように言いました。受話きが、ゆかに落ちていたのです。

お母さんよりもっとびっくりしたのは、陽一くんのほうでした。そのときのようすが想ぞうできなからです。

お母さんは、あわてて受話きを手にすると、すぐに話し始めました。

「もしもし、お待たせしてすみません。」

「……………」

「えっ、そうなの。それは大へんしつ礼しました。」

「……………」

陽一くんは、またまんがを読み始めました。でも、岩井さんとお母さんの話が気になつてしかたがありません。

電話で話し終わったお母さんの顔は、思ったとおり、いつもと少しちがっていました。

「陽ちゃん、岩井さんは、受話きの向こうでどんな顔をなさっていたんでしょね。」

お母さんの言いたいことは、陽一くんにもよくわかりました。そして、そのとき、やっと陽一くんの頭の中からまんがのことが消えたのです。

23 電話の向こうはどんな顔

2-1(1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。(礼儀)

1 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

礼儀作法は、人間がよりよく生活していくのに欠かせないものである。それは形式的なものでなく、その根底には相手や周りの人への思いやり、気づかいなど真心がなければならない。ここでは、礼儀作法は相手の気持ちを考えて、時と場合に応じた接し方ができてこそ成立することを理解させ、だれに対しても同じような行動がとれるようにさせたい。

〈子どもの実態について〉

この期の子どもの判断や行動を左右するのは、仲間集団のもつ雰囲気や力であることが多い。そのため、集団の力や活発な活動に流されて、正常な判断を欠く事態も生ずる。そのため、いい加減なあいさつをしたり、荒っぽい言葉遣いや場所をわきまえない言葉遣いや行動をとったりするのである。しかし、相手の気持ちや立場を自分に置き替えて考える力も育ってくるので、少しずつ自己コントロールすることもできるようになってくる。

〈資料について〉

本資料は、子どもの身近にある話題から電話の対応を取り上げ、自分の対応が相手にどのように受け止められるかを視野に入れて考えるように構成されたものである。

陽一が買ったばかりの漫画に夢中になっていると、母の友達から電話がかかってくる。陽一は、ひとまず型通りの対応をするが、気持ちが漫画ばかりに向けられているので、母が電話口に出るまでの間、相手に対して十分な対応ができない。

身近な話題であるので、文章を手がかりにしながら動作化や役割演技などを用いて、その場の状況を的確に想像して考えることができるようにさせたい。

2 ねらい

心のこもった対応の大切さを知り、だれに対しても真心をこめて接しようとする態度を養う。

□板書



心のこもった対応

- ・相手の気持ちを大切に。
- ・形だけですませない。
- ・真心をもって対応する。



電話の向こうはどんな顔



岩井さんの気持ち

- ・すぐかわってくるだろう、よかった。
- ・早くかわってほしいのだろう。
- ・受話器の落ちる音におどろき、あきれている。

「もしもお待たせしてすみません」

- ・ずいぶん待たされた。
- ・用があるなら、かけ直すのに、ええそのそれは大へんしりました。
- ・陽一君は何していたの。
- ・すごい音がした。
- ・悪いことをした。
- ・おこっているだろう。
- ・自分かかってだった。
- ・まん画をおいて、きちんとよぶべきだった。

3 展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 家に電話がかかってきた場面を設定し、普段どのように取り繕っているか演じてみる。</p> <p>(2) 資料を読んで、相手の気持ちについて話し合う。</p> <p>① お母さんが電話に出るまでの間、岩井さんはどんな気持ちだったか考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐかわってくるだろう、よかった。 ・どうしておそいのだろう。 ・早くかわってほしい。 ・受話器を下に落とした音におどろき、あきれている。 <p>② やっと電話に出たお母さんに岩井さんは、どんな話をしたのでしょ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陽一君が出てくれてから、ずいぶん待ったのよ。 ・用があって出られないのなら、そう言ってくれたら、後でかけ直したのに。 ・さっきすごい音がしたけど何かあったの。 ・陽一君は何していたのかしら。 <p>③ お母さんの話を聞いて陽一君はどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩井さんを長い間待たせて、悪いことをした。 ・岩井さんはきっとおこった顔をしていただろう。 ・漫画ばかりに気をとられて、自分勝手だった。 ・漫画をおいて、お母さんをさがして伝えたらよかった。 <p>④ 心のこもった対応をすることはどういうことか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを大切に。 ・形だけですませない。 ・真心をもって対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの対応の仕方を振り返ることでねらいとする価値にかかわる意識がもてるようになる。 ・岩井さんの心理状態を、深く考えられるようにする。 ・お母さんと岩井さんの会話の部分を演じながら考えられるようにする。教師がお母さん役になって、子どもが岩井さんを自由に演じられるようにしてもよい。 ・待たされた岩井さんの気持ちと対比させながら考えられるようにする。 ・自分の対応が相手にどのように受けとめられるかを考えられるようにする。 ・生活経験が多様に語れるように実態把握を生かすことができるようにする。 ・電話は家庭と社会の接点であること、相手が見えないためにうまく気持ちが伝わらないこともあることなどを、教師の経験談を交えて話すことにより実践意欲を高められるようにする。
<p>(3) 自分たちの生活について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 真心をこめて対応ができたことはありますか。 ・お客さんが来たとき、はずかしがらないではっきりとあいさつができた。 	
<p>(4) 本時のまとめとして、教師の話を聞く。</p>	